

二年間の助成を受けて

氏名：H.M.H

日越大学・地域研究学部 日本学科修士2年

日越大学・地域研究学部 日本学科修士2年のH.M.Hと申します。

人文社会科学大学の大学を卒業し、日本語と日本文化を深く調べ続けたいと思いました。そこで、国家大学・日越大学修士課程、地域研究プログラム日本研究を勉強しました。日越大学で勉強した二年間はゼンショーからの支援を受けていただき、非常に光栄で、心から感謝しております。自分にとって、これは大事で、忘れられない時間だと思います。ゼンショーが応援するために、日越大学で日本語や日本文化・社会・人間に関する専門的な地域を勉強し、論文を完成できました。さらに、先生方が教えてくださって、日越大学の友達に会え、きわめて意味がある時間を過ごし、成長になりました。

特に、東京大学で四ヶ月インターンシップするのは長い時間ではないが、貴重な体験で、重要なチャンスでした。外国人にとって、家紋のような日本の歴史的な物を調べる際に、古文や家紋についての研究を直接的に参考するのは難しいので、東京大学でインターンシップするため、日本の家紋の図柄「藤紋を事例として」という論文のテーマに関する多くの資料を調べました。さらに、東京大学の先生方やゼンショーが応援してくださって、日本人の学生、修士、博士と一緒に勉強する機会がありました。そこで、研究方法や論文の書き方について多く勉強になりました。

また、日本の文化や日本人について調べることもできました。例えば、東大の学生や南京大学の学生とのフィールドワークです。中国の南京大の学生や東京大学の学生と11月3日～5日の集中講義に参加しました。東京で多くの面白い所を見学に行き、調査やインタビューを行いました。調査結果のとおり、生活世界を編む技術についていろいろな勉強になり、東京のほかの色が分りました。外国人にとって、東京についてのイメージとは日本の便利で豊かな首都です。しかし、そのような東京の中に時代に流さない伝統的な店がまだ残っています。現代社会には、東京みたい便利で豊かな町に、伝統的な価値を守ることは簡単ではない問題です。便利なら便利なほど、伝統的な価値から離脱すると言えます。その点について、家紋も同じだと思います。家紋は昔から作られ、代々継承される中で、より洗練されながら様々に変化してきました。現在社会における家紋の存在感は希薄になっていくことは事実であるが、各家のアイデンティティを表す家紋は意味や価値、そして先人たちの遺産であるという認識が引き継がれているといえます。家紋の美しさはモチーフとデザインに現れるが、単なる作品とは異なり、家紋は家と結びついた意味を持っています。その意味で、家紋は現在の日本人が忘れ去った何か、過ぎ去った日本の姿を留めるツールの一つです。つまり、どこの

国でも、どの社会でも、歴史的なものは重要な存在だと思われます。自分の論文にとって、これは非常に面白い見方で、役に立つでした。

他に、12月の13日から14日までゼンショーの本社と工場を見学したのも大事な体験でした。ゼンショーの成功というのは当たり前ではなく、理由があると言えます。それは安全・安心・コストの食です。現代社会には、食品の品質は深刻な問題です。特に大きい町では、食材は近郊から輸送するので、コストが高く、新鮮ではないです。そこで、利益のため、農産物が良く使われています。これは一番不安を覚えることです。だれでも安全でおいしい食が食べられることは今までまだ解決していない問題と言えます。品質は値段に深い関係があるので、安い食品は品質が良くない食と思われます。そこで、ゼンショーの理念及び使命の実現は非常に意味があると思います。ゼンショーの本社と工場を見学したのは短い時間だったが、職業とビジネスについて、いろいろと勉強になりました。

東京大学でインターンシップの後に、帰国し、日越大学で勉強し続けました。日本の家紋の図柄「藤紋を事例として」という論文を完成し、7月に国家大学・日越大学修士課程を卒業しました。

二年間は、先生方がいつもお世話になっており、ゼンショーから奨学金のご支援をいただけることになり、私に勉強を続けることを可能にいただいた、心から感謝しております。ゼンショーからの支援のお陰で、得難い経験と成長の機会を提供していただき、楽しい大学院生活を過ごしました。日越大学を卒業する後に、自分の道を選ばなければならなく、この感謝の気持ちを忘れずに、自分を信じ、いつも一生懸命頑張りたいと思います。

最後になりますが、ご支援をしてくださった皆様、誠にありがとうございました。

現在の状況についてご報告

卒業した後、日本語の教師としてハノイ工業大学で教えております。日本語の教育に関する仕事を短い時間で働いて、未経験で、大変ですが、得難い経験と成長の機会を提供していただきました。

今、仕事の以外、好きなこともしたくて、自分を信じ、楽しい生活を過ごすようにしております。

最後になりますが、ご支援をしてくださった皆様、誠にありがとうございました。